

令和 6 年 5 月 17 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01732

研究課題名（和文）ドル化経済における銀行業の資本構成の決定要因：カンボジア銀行業の計量分析

研究課題名（英文）The Determinants of Banks' Capital Structure in A Dollarized Economy

研究代表者

奥田 英信（Okuda, Hidenobu）

帝京大学・経済学部・教授

研究者番号：00233461

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：カンボジアの主要商業銀行について2011年から2022年までの年次バランスパネルデータを利用し、資本総資産比率の回帰分析を行った。分析結果によれば、2020年のパンデミック発生前後で、カンボジア銀行部門の資本構成は大きな変化が観察された。2019年以前には、積極的な経営拡大を目指す銀行は経営リスクを低く評価している傾向があり、ミクロprudential政策面で深刻な問題があった。2020年以降は、銀行の資本構成には企業金融理論がより当てはまるようになり、各銀行がリスクへの認識を高め、経営リスクを重視する経営に変化したことが観察された。この変化は銀行行政の成功事例として評価に値する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、2011年から2021年まで拡張し、バランスパネルデータの利用可能な主要商業銀行12行のデータを利用し、カンボジア商業銀行の資本総資産比率の回帰分析を行った。推計結果によれば、2019年までの期間において、（1）カンボジア商業銀行の資本構成には企業金融理論の仮説が当てはまる部分もあるが、（2）積極的な経営拡大を目指す銀行は経営リスクを低く評価している傾向が観察された。この結果は、ドル化した銀行市場を持つ途上国の金融当局にとって、危機時の銀行経営の安定性を維持できた成功例であり、他の類似経済にとって有効な示唆を与えるものと言える。

研究成果の概要（英文）： This study conducted a regression analysis of the capital-to-asset ratio using annual balance panel data from 2011 to 2022 for 12 major commercial banks in Cambodia. According to the analysis results, significant changes were observed in the capital structure of the Cambodian banking sector before and after the outbreak of the pandemic in 2020. Before 2019, banks aiming for aggressive business expansion tended to underestimate management risks, and there were serious problems with microprudential policies. From 2020 onwards, corporate finance theory has become more applicable to banks' capital structures, and it has been observed that each bank has increased its awareness of risk and changed its management to emphasize management risk. This change deserves recognition as a success story in banking administration.

研究分野：開発金融論

キーワード：カンボジア 商業銀行 資本構成 COVID19 危機対応政策

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

ドル化が進んだカンボジアでは、銀行部門の総資産残高と総負債残高の90%以上がドル建てとなっている。このため、中央銀行は、最後の貸手機能を果たせず、民間銀行はシステミックリスクに対応するため著しく高い流動性資産の保有比率と自己資本比率を維持している。しかしながら、カンボジアの銀行の資本構成決定に関する計量分析は皆無であり、カンボジアの銀行業の資本構成が経済合理性に基づいて適切に決定されているのかどうかについて不明である。この点を明らかにすることは、同国の銀行行政において重要な政策的な意義を持っている。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、カンボジア銀行業の資本構成の妥当性について、Covid19によるパンデミック発生の前後を比較しつつ、ミクロ計量分析を行うことである。

具体的な分析課題としては、( )ドル化が進み、中央銀行の最後の貸手機能が制約されたカンボジアにおいて、銀行の資本構成がどのような要因によって決定されるのか、( )銀行の資本構成が自主的に決定される場合、適切な資本構成の実現が可能であるのか、( )Covid19によるパンデミックの発生に対処するため銀行の資本構成はどう変化したのか、( )以上の分析結果から、カンボジア銀行監督についての制度的改善策への示唆は何か、を考察した。

### 3. 研究の方法

本研究は、Romdhane (2012)、Ukaegbu and Oino (2013)、Allen and et al. (2013)らの研究を踏まえて、カンボジアの主要商業銀行12行について2011年から2022年までの年次バランスパネルデータを利用し、資本構成の決定要因について回帰分析を行った。推計に利用したデータには、National Bank of Cambodiaのwebサイトからダウンロードしたものをを用いた。

被説明変数である資本比率には、資本の対総資産比率を用いた。また主な説明変数は、銀行の収益性(税引前利益が総資産に占める割合)、経営規模(総資産自然対数値)、マクロ経済環境(実質GDP成長率)、経営リスク(不良債権が総資産に占める割合)、成長機会(融資額年間成長率)、経営効率(預貸率)、安全資産(中央銀行当座預金が総資産に占める割合)等である。

尚、推計では変数の同時決定による内生性問題が発生するため、説明変数を当該変数の1期ラグ値とGDP成長率とで回帰した推計値を用いる2段階最小時を用いて推計を行った。また、推計結果を比較して参考にするため、説明変数に1期ラグ値を用いた推計も行った。

### 4. 研究成果

(1) 回帰分析による主要な結果は次の報告論文に纏められている。

国際開発学会第33回全国大会報告論文「The Determinants of Capital Structure of the Cambodian Commercial Banks - A Quantitative Analysis of The Banking Industry in A Dollarized Economy」(2022年12月3日、明治大学開催)

2011年から2017年までの年次パネルデータを利用した暫定的な分析結果によると、(1)カンボジアの商業銀行の資本構成には、貸出の対預金比率が正の影響を与えるのに対し、経営規模、不良債権比率が負の影響を与えること、(2)経営規模、成長機会、貸出の対預金比率の符号は先行研究と一致しているが、収益性と経営リスクの符号が先行研究と相反的であることが示唆された。このことは、ドル化経済の下で中央銀行の最後の貸手機能に制約があるにもかかわらず、カンボジアの商業銀行がリスクに十分な注意を払っていない可能性を示唆している。カンボジアの銀行行政においては、銀行経営の健全性に一層の注意を払う必要があると思われる。

アジア政経学会報告論文「カンボジア銀行業の資本構成とプルデンシャル政策への含意」(2023年11月2日、京都大学開催)

2019年までの期間において、(1)カンボジア商業銀行の資本構成には企業金融理論の仮説が当てはまる部分もあるが、(2)積極的な経営拡大を目指す銀行は経営リスクを低く評価している傾向があり、ミクロプルデンシャル政策面で深刻な問題があったことが示唆された。

しかしながら、2020年からのCOVID19による大規模なショックに対して、カンボジア銀行部門の資本構成は大きな変化が観察された。この期間の資本総資産比率の回帰分析結果によれば、(1)カンボジア商業銀行の資本構成には企業金融理論の仮説がより当てはまるようになり、(2)リスクの高い銀行は資本比率を高める傾向が観察された。このことは危機を境として、各銀行がリスクへの認識を高め、経営リスクを重視する経営に変化したことをうかがわせる。

(2) 銀行監督に関する政策的な示唆について

上記(1)(2)に観察されたカンボジア商業銀行の経営特性の変化から、平常時と危機時では資本比率の決定に変化が見られた。このような変化が銀行自身による自発的な対応であるのか、あるいは金融当局の指導によるものであるかは明確に判断することはできないが、カンボジアの銀行部門が COVID19 によるショックに対しこれまでのところ深刻な経営破綻を発生させることなく対応できたのは事実である。その背景としては、中央銀行による迅速な対応と、世界規模での大規模な流動性供給の拡大と、海外からのドル資金流入の確保によって、いわばマクロプルデンシャル政策が成功を納めたことが重要である。このことは、類似の環境下にあるドル化した途上国経済にとって示唆に富む事例であり、金融行政の成功例として評価に値するといえよう。

(以上)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Daiju AIBA and Hidenobu OKUDA	4. 巻 -
2. 論文標題 The Cost Efficiency of Cambodian Commercial Banks: A Stochastic Frontier Analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Singapore Economic Review	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1142/S0217590821500673	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hidenobu Okuda, Pan Pengqin, and HuShiyi	4. 巻 55
2. 論文標題 Determinants of Capital Structure of The Cambodian Commercial Bnaks: A Quantitative Analysis of Bnaking Industry in A Dollarized Economy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京経済学研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hidenobu Okuda	4. 巻 55
2. 論文標題 Market Competitiveness of Cambodian Commercial Banks	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 帝京経済学研究	6. 最初と最後の頁 141-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 奥田英信・潘 鵬欽・胡詩翌	4. 巻 -
2. 論文標題 カンボジアの銀行資本構成の決定要因：高度ドル化経済の実証研究」カンボジアの銀行資本構成の決定要因：高度ドル化経済の実証研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一橋大学経済学研究科ディスカッションペーパーNo.2020-03	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Hidenobu Okuda
2. 発表標題 “ The Determinants of Bank 's Capital Structure in Cambodia: Empirical Evidence from A highly Dollarized Economy ”
3. 学会等名 East Asian Econmic Association ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奥田英信
2. 発表標題 ドル化経済における銀行業の資本構成の決定要因：カンボジア銀行業の計量分析
3. 学会等名 2020年度アジア政経学会春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥田英信、他
2. 発表標題 カンボジア商業銀行の市場競争度：2007-2017年期のBoone指標の計測
3. 学会等名 金融学会2019年秋季大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Hidenobu Okuda and Serey Dhea	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 224
3. 書名 Cambodian Dollarization Its Policy Implications for LDCs' Financial Development	

〔産業財産権〕

〔その他〕

National Bank of Cambodiaと日本国際協力機構研究所との共同出版プロジェクトに今日編著者として参加し、2023年にRoutledge社からCambodian Dollarization Its Policy Implications for LDCs' Financial Developmentを刊行した。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
カンボジア	National Bank of Cambodia		